

# ヒロシマ戦後史の中の広島女学院～河本一郎の足跡を中心に～

宇吹 暁

広島女学院大学第48回原爆講座—8・6の意味するもの—

2015年7月14日 於砂本記念講堂

\*\*\*\*宇吹暁（うぶき さとる）プロフィール\*\*\*\*  
1946年、広島県呉市生れ。大学卒業後、京都都府立総合資料館で東寺百合文書（1997年に国宝指定）整理補助業務、広島県史編さん室で「広島県史原爆資料編」の編さん事務、広島大学原爆放射能医学研究所で原爆資料の収集・整理分析に当たる。2001年4月～2011年3月、広島女学院大学生活科学部に勤務。\*\*\*\*

## I. はじめに

### 1 私が出会った広島女学院関係者

庄野直美 2012年2月18日死去。86歳。元広島女学院大学教授。

宇吹暁「『庄野直美』私論」（日本ジャーナリスト会議広島支部『広島ジャーナリスト』第8号、2012年3月刊 [http://www.jci.gr.jp/hirosima/hiroshima\\_jc\\_pdf/2012\\_8.pdf](http://www.jci.gr.jp/hirosima/hiroshima_jc_pdf/2012_8.pdf)）

小倉桂子、節子・サーロー

非核特使（日本外務省委嘱）

1	高橋 昭博	国連軍縮フェローシップ・プログラムの広島・長崎訪問	広島	平成22年9月21日～9月25日
87	小倉 桂子	外国報道関係者招聘事業における被爆証言	広島	平成24年10月12日～12月19日
88	節子 サーロー	米国シカゴ大学における被爆証言	(米国)	平成24年11月9日～12月3日

出典：「非核特使」委嘱実績 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaku/tokushi/zisseki.html>

**Shizuko Tomoda**

Passport to Global Citizenship Program—Kyoto, Nara, and Hiroshima March 14 – 22, 2014

Program Directors: Prof. **Shizuko Tomoda**, Modern Languages Department

出典：コネチカット州立大学 <http://www.ccsu.edu/default.html>

**土屋時子**

ユネスコ記録遺産

広島文学資料保全の会（土屋時子代表）は5日、詩人峠三吉（1917～53年）ら被爆作家3人の直筆文書3点について、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の記憶遺産への登録に向けた活動を始めた。被爆の惨劇を刻む文学資料を確実に次世代へ継承していくのが狙い。2016年の申請、17年登録を目指す。3点は、峠三吉「原爆詩集」の最終草稿▽原爆詩人栗原貞子（1913～05年）の代表作「生まれめんな」が記された創作ノート▽作家原民喜（1905～51年）が小説「夏の花」の下敷きにした原爆被災時の手帳。順に同会、**広島女学院大**、遺族がそれぞれ保管している。出典：<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=31824>

<参照>記憶遺産（(Memory of the World : MOW)）＝世界各地の古文書や絵画などの保護を目的に1992年に創設されたユネスコ遺産事業。世界遺産や無形文化遺産とは異なり、根拠となる国際条約なし。我が国の登録は3件：「山本作兵衛炭坑記録画・記録文書」（2011年5月）、「御堂関白記」「慶長遣欧使節関係資料」（2013年6月）。2015年の登録に向け、「舞鶴への生還—1945～1956シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録—」（申請・京都府舞鶴市）と中世の寺院運営について記した膨大な古文書群「東寺百合文書」（同・政府）に決まっている。

## 2 ヒロシマ戦後史の中で知った広島女学院関係者

### メアリ・マクミラン

アメリカのフロリダ州ペンサコーラに生まれる。テネシー州スカーレット大学大学院で聖書、文学を学び宣教師に任命される。テネシー州バンダビルド大学大学院で社会福祉学を学ぶ。1947年(昭和22年)広島女学院専門部教授に就任(翌年広島女学院大学教授)。牛田教会設立を支援する。広島日米協会役員やワールド・フレンドシップ・センター理事などを務め、広島キリスト教社会館など多くの事業に加わった。また広島県、市の社会事業関係課でケーススタディーを手伝い、物心両面の支援を惜しまなかった。1980年(昭和55年)広島市特別名誉市民の称号を受けた。

広島市立図書館「広島ゆかりの人物情報」<http://www.library.city.hiroshima.jp/search/person/>  
刊行委員会(代表:藤原茂)『ヒロシマのこだまに—メアリ・マクミランと広島』溪水社、1980年  
Guide to the Mary McMillan Papers, 1936-1997 and undated (bulk 1952-1991)

<http://library.duke.edu/rubenstein/findingsaids/mcmillanmary/>

### 松本卓夫(略年表)

1947/8/-- 米でも8月6日に「広島デー」。松本卓夫広島女学院長に友人の米人宗教家から連絡

1948/1/-- 米教育界から広島女学院に留学の招請状。松本卓夫院長にも被爆状況の講演依頼。

1950/1/8 1948年9月以来、渡米し平和講演などしていた広島女学院の松本卓夫院長が広島帰省

1964/1/17 広島・長崎世界平和巡礼団の広島関係メンバー決まる。松本卓夫元広島女学院長、志水清広島大原医研教授ら15人。

1964/4/16 第2回広島・長崎世界平和巡礼団が広島出発。広島市平和記念館で結団壮行式。団員40人が2カ月をかけ欧米、ソ連など8カ国を回る。松本卓夫団長(元広島女学院長)が「原爆という共通の苦悩を背負った私たちは協力してヒロシマ、ナガサキの声を世界に訴えます」

1964/7/4 広島・長崎世界平和巡礼団40人が75日ぶりに帰国。ナホトカから横浜へ。米、ソ、ヨーロッパなど8カ国150都市訪問。松本卓夫団長「広島・長崎の名はよく知られているが、後遺症などの実態はほとんどわかっていない。被爆者の生の声は大きな感動を与えた」

1964/7/6 広島・長崎世界平和巡礼団が広島市の平和記念館で市民への帰国報告集会。松本卓夫団長が「巡礼団は世界平和のためのタネまきだった。今後はその成長と収穫を繰り広げなければならないと痛切に感じている」

1970/6/22 米市民に核兵器の廃絶と世界平和を訴える「広島・長崎平和使節団」(団長、松本卓夫広島ワールド・フレンドシップ・センター館長、6人)が羽田を出発

1970/8/2 訪米中の広島・長崎平和使節団(松本卓夫団長)がミネソタ州セントポールの教会で原爆慰霊式

1970/8/3 訪米中の広島・長崎平和使節団(松本卓夫団長、6人)が国連で記者会見。松本団長「原爆の無差別殺害は正当化できない犯罪である」。会見に先立ち、リーゼン・ニューヨーク市長らと懇談。

1970/8/22 全米で核兵器の廃絶と世界平和を訴えた広島・長崎平和使節団(松本卓夫団長)の6人が帰国。6月22日に日本を出発し、米の50余りの都市を訪問

1970/8/30 全米で核兵器の廃絶と世界平和を訴えた広島・長崎平和使節団が広島市の平和記念館で報告会。松本卓夫団長「今回の使節団は個別に行動し、小さな集会上に主眼を置き平和を訴えた。25周年ということで米国人が独自で被爆者を追悼する行事をしていることに感銘を受けた。反戦平和には強い関心を持ち、われわれの訪問は反響を呼んだ」

1971/7/17 1964年、広島・長崎平和巡礼団の一員としてトルーマン米大統領に会見した松本卓夫団長が、中国新聞のインタビューで「原爆投下を命じた責任者の口からは、通りいっぺんの返事しかなかった。命を無駄にせず、戦争を早く終わらせたかった—とくりかえした。はらわたが煮えくり返るような気持ちをみんなが持った。実に後味の悪い歴史的会見だった」

中国新聞社<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?lang=ja>の年表より抄録。

伝記:加藤裕子編『霊は人を生かす 松本卓夫の生涯』1988年

朗読劇「夏雲は忘れない」(2003年7月15日 上演)

広島女学院原爆被災誌『夏雲』より 構成・演出 土屋時子 上演 朗読サークル「ブルースカイ」

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/bngkkn/database/Bluesky.html>



慰霊式で弔辞を述べる広瀬院長  
『広島女学院 110 年史』



牛田山の原爆慰霊碑 (1953年5月17日献碑)  
『90年の歩み』(広島女学院)

カレリア・ドレイゴ

カレリア・ドレイゴさん死去 93歳 広島で被爆 白系ロシア人

広島で被爆した白系ロシア人、カレリア・ドレイゴさんが、米国カリフォルニア州ロングビーチで昨年12月30日、心不全のため死去していた。93歳。長男アンソニーさんから9日までに広島市の原爆資料館などへ連絡があった。カレリアさんは、ロシア革命後に両親が日本へ亡命し、父が1926年から広島女学院の音楽教師となったことから広島で育った。45年8月6日は、現在の東区牛田旭にあった自宅で両親や弟と被爆した。彼女の死去で白系ロシア人被爆者は全員が亡くなったとみられる。

(2015年6月10日「中国新聞」抄録)

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=45479>

(メモ) 広島平和文化センター編・刊『原爆被爆者等面接記録 米国戦略爆撃調査団資料—テープ部門—』(1986年3月刊)に掲載の「米国人被爆女性面接記録」の「パルシコフ嬢」はカレリアさん。

Ⅱ. 河本一郎の足跡

右写真は：『中国新聞』2001年9月28日

## 河本一郎略歴

1929.1.1 ペルーのリマにて出生。1931. 父、リマにて他界。

1938.4 母と二人で広島県安芸郡坂村（現在坂町）に帰郷。母、大阪に出て他界。13歳の孤児。

1943春 大阪から坂村に帰る。坂火力発電所の雑役夫となる。

1945.8.6 以後、15日間、広島市内の救援活動をする。二次放射能障害に悩む。

1947. 広島東部教会にて「洗礼」を受ける。以後、坂村に子供会組織。紙芝居や幻灯をもって孤児院慰問。反核平和運動に出席。

1950. マクミラン宣教師との出会い。日本友和会広島支部 FOR で活動。詩人峠三吉との出会い。

1952.6 「原爆被害者の会」結成に協力。1953秋 坂発電所を退職。広島に出て日雇い労務につく。

1955.10.28 佐々木禎子（10.25 他界）追悼会と岩本儀江 1 周忌を広島 YMCA の一室で行なう。

1956.1 広島市内 55 校の小・中・高校生が「広島平和をきずく児童・生徒の会」を組織。

**1957.5.1 ドイツの新聞記者ロベルト・ユンク氏が広島訪問。1960.5.29 にも。テレビロケのため広島市入り。作品は自著「灰燼の光」にもとづき撮影。1961/1/—ユンクから広島市へ便り＝広島を舞台に原爆の傷跡を撮影したテレビ映画「灰燼の光」が、西ドイツ、フランスで放映され好評。英、デンマーク、イタリアなどのテレビ局からも放映申し込みが相次ぐ。2.10 ポルターージュ「灰燼の光～甦えるヒロシマ」の日本語版が出版。**

1958.5.5 「原爆の子の像」除幕式。6.22 映画「千羽鶴」試写会。「広島折鶴の会」発足。世話人となる。

1960. 「広島キリスト者平和の会」の一員として、韓国人被爆者への慰問・救援も開始。

**1962.4 ロバート・J・リフトン（アメリカ・イエール大学精神医学科）、広島を訪問。1967年、Death in Life : Survivors of Hiroshima 出版（日本訳は『死の内の生命 ヒロシマの生存者』）**

1965. ソビエト・バイカル湖で開催の「第9回世界青年学生友好会」に招待される。「広島折鶴の会」原爆ドーム保存の署名と募金開始。67.8.5 原爆ドーム補修完工式。

1967.4 広島女学院中学高等学校の用務員となる。

1968頃 「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」建立のために募金活動開始。70.8.5 碑の除幕式と慰霊祭。

1970.8 「広島折鶴の会」会員5名とともに在韓被爆者と被爆二世との交流のために韓国訪問。

1972夏 西ドイツのハイネマン大統領からミュンヘン・オリンピックに招待される。他の3名とともに20日間。

1980 日韓両政府合意による「渡日治療」開始（—86）。「広島折鶴の会」会員と慰問開始。1984 「在韓被爆者渡日治療被爆者委員会」による招請治療開始。会員とともに慰問開始。

1994.6 大韓民国の保健社会部長官賞受賞。

2001.6.7 広島赤十字病院において他界。享年72歳。6.10 第13回谷本清平和賞受賞。（『故河本一郎告別式 式次第』より抄録）

## Ⅲ. おわりに～「広島女学院被爆史」の構想～

### 広島女学院の原爆被災状況

『広島原爆戦災誌 第四巻』（広島市、1971年）＜第二編 各説 第三章第3節 各中学校 第24項 広島女学院高等女学校、第4節 専門学校・高等学校・大学 第1項 広島女学院専門学校＞

### 国立広島原爆死没者追悼祈念館の収蔵資料検索装置による検索結果(2015年7月7日)

キーワード「広島女学院高等学校」＝体験記 361件、死亡者情報 113件、証言映像 11件

キーワード「広島女学院専門学校」＝体験記 122件、死亡者情報 16件、証言映像 1件

### 被爆者が描いた原爆の絵を街角に返す会（5号碑）



『広島女学院報』第143号 2004（平成16）年10月1日

8月6日に除幕された広島女学院の原爆の絵碑には、本校の卒業生で、オーストラリア在住の絵本作家である森本順子さんの絵本「MY HIROSHIMA」（「わたしのヒロシマ」）から、7枚の絵が採用されています。

### ある試み

鈴木瑛莉子『広島県の学校教育の中の平和教育の歴史の調査と研究—広島女学院・比治山学園を中心にして—』（広島女学院大学大学院人間生活学研究科生活文化専攻 2010年度修士論文）